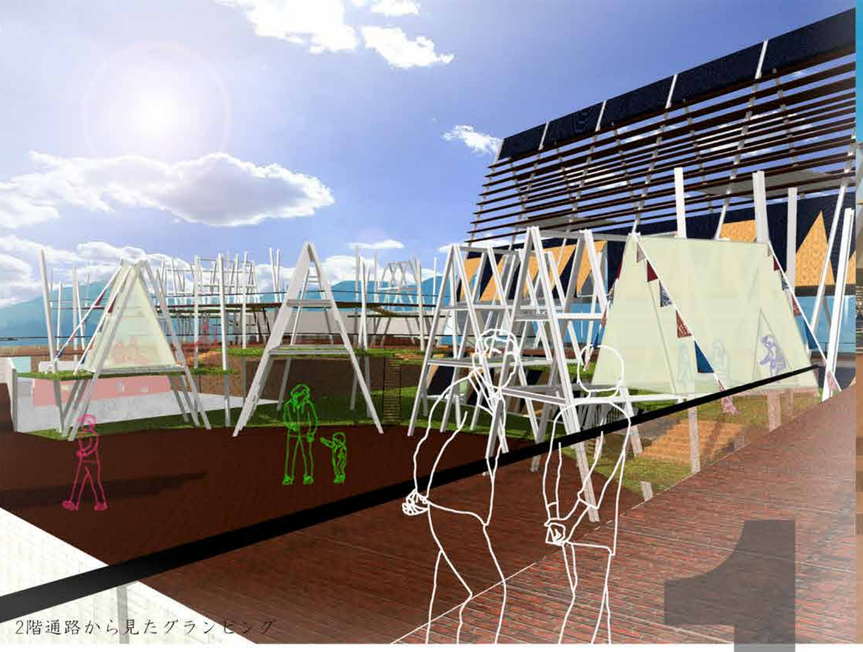
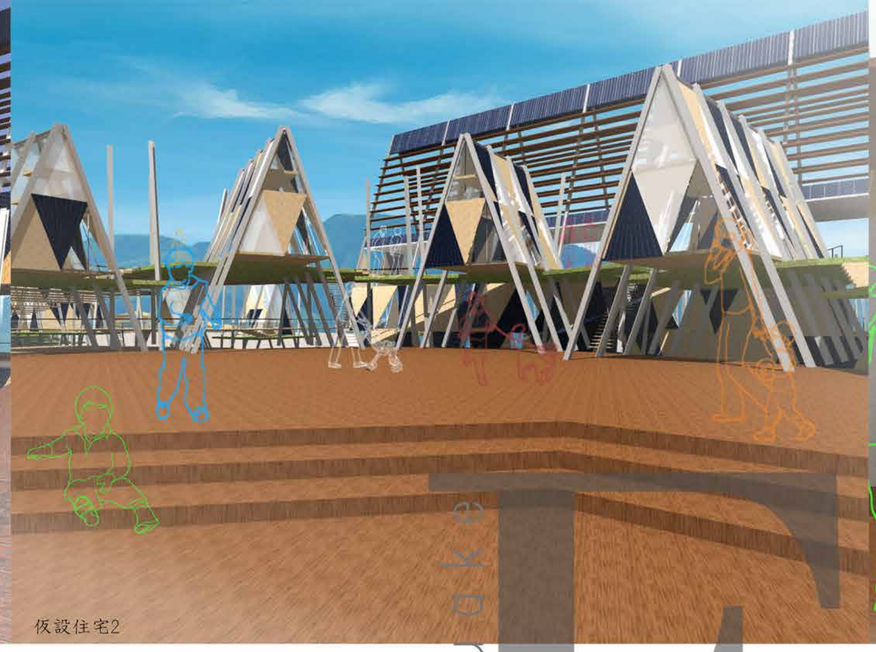
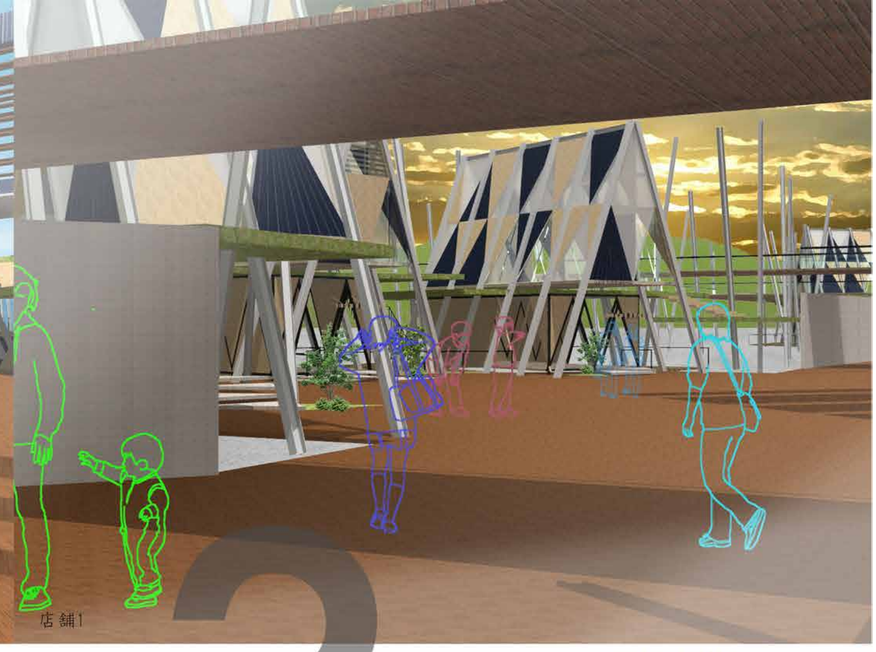


2階通路から見たグランピング



仮設住宅2



店舗1

# Earthquake 震災後

## stage 1

stage1日常の1階では遊具を設置し、公園として利用することができる。仮設住宅を計画するうえで敷地は広い場所が必要である。現状では敷地不足より、学校のグラウンドに建てられることが多い。その問題の改善方法として敷地を事前に準備する必要がある。しかし、災害が発生するまでの間、使われない場所だと無駄であるため、公園として利用する提案を行う。

stage1日常の2階では仮設住宅の構造体を使用したキャンプ場となる。仮設住宅の構造部分をあらかじめ設置しておくことにより、工期を短縮することができる。その構造部分を利用し、布を設置することでグランピングのようなキャンプ施設として利用できるように計画を行った。キッチンは中心に設置し、交流の場として屋上にバーベキューなどができるテラスを計画した。

## stage 2

stage2の震災後ではstage1の構造部分に三角の壁を設置することにより、仮設住宅へと変化する。三角の壁1つで構成することによりユニット化を行い、工期の短縮を行う。

災害が発生すると構造部分が仮設住宅となりstage2となる。三角の壁には木・ガラス・ポリカーボネート・太陽光の4つの素材を利用する。

家の中は三角のフレームによって得た屋根裏部屋を計画する。屋根裏部屋は他の場所より天井が低くなっているため、落ち着いた空間となる。また限られた土地で空間を最大限に高利用することができる。

## stage 3

# Restoration 復興

stage4では仮設住宅に住んでいた方がえの生活に復帰でき、空いた仮設住宅から壁等を再利用し、また新たな用途として利用する。

仮設住宅をつくるだけが復興ではなく、被災者の方たちが仕事に復帰することが復興へ重要となる。そのためstage3仮設住宅の下に仕事場を設置することができれば便利であると考えstage3では復興として　住宅の下に店舗を設置する。

# Daily 日常

1階遊具

仮設住宅1

店舗2